フランス・ブレーズパスカル大学

生活科学部　人間生活学科
発達臨床心理学講座　３年
櫻川苑子

私はフランスの中央部の山間の町、クレルモンフェランの、ブレーズパスカル大学に留学していました。ブレーズパスカル大学には日本語学科がなく、クレルモンフェランは、何もない小さな町だと聞いていたので、１年間みっちりと勉強するにはうってつけの場所だと意気込む反面、畑が一面に広がるような光景を想像していたので、出発する前はすごく不安でもありました。しかし、想像していたほどの田舎町ではなく、おしゃれを楽しんだり、遊んだりする場所がないというだけで、日常生活はなんの支障もなく送ることができました。それ以上に、クレルモンフェランは学生の町であるため、ゆったりと落ち着いた時間が流れていて、とても過ごしやすい町でした。

大学では、前期は心理学、後期は美術史の授業をメインに専攻していましたが、以前留学されていた先輩が､前期は授業は聴講だけにして、まず語学力を高めた、という話を伺っていたので、前期は聴講のみにしテストは受けず、夜は週に２回５時間ずつ語学学校に通っていました。しかし、初めの段階であまり考えずに決めてしまったのがいけないのですが、普通に履修してテストに挑戦するか、そうでなければ、日中に行われている、より長時間開講している語学のコースをとるべきであったと、後悔しました。まず、前期に専攻していた心理学ですが、わたしが学びたいと思っていた発達心理学をメインに、認知心理学や精神医学、社会心理学の授業を履修しました。同じ分野であっても、学び方が違ったり、具体的な例を学べたりして、違いを比較でき、また今までになかった捉え方を学ぶのが楽しかったです。前期では、心理学部で手続きをしたので心理学部の授業、後期は留学生支援センターに相談をして授業をとることができたので、フランスでしか学べない違う分野のことも学んでみようと思い、美術史の授業を自分の好きな時代のものを中心に、多く履修しました。美術は好きでも、専門的な勉強をしたことはなかったので、美術館やお城などに行って美術作品を見る､見方が大きく変わりました。授業はすべてフランス語の講義形式でした。授業によっては本を読んでレポートを何回か提出、というものもありましたがほとんどのものがテストでした。テストはマークのものもありましたが、美術史は３時間論述ばかりで、留学生は紙辞書の持ちこみが許されてはいるものの、大学の図書館で急きょ借りたものであったので、語彙数が少なく、あまり役には立たず、という感じでした。学科によっては１時間や５時間の論述があったり、留学生のための少しやさしい試験を設けてくれる親切な先生がいたりもしたようです。

学校が始まる前は、留学生をサポートする団体の人が日常生活の援助をしてくれました。１０か月の交換留学期間は終わりましたが、これらのことを思い出としてではなく、現在進行形のことのように捉え、フランスで出会った仲間と交流を続けて行くのはもちろんですが、留学期間中に学んだこと、感じたことを無駄にしないよう、今の生活に反映して、今後も学びを続けて行きます。